

町民意見等の概要及び各意見等に対する町の考え方

1 事案名 茨城町第5次総合計画後期基本計画（案）

2 意見提出者数 5人

提出方法	人数
直接提出	4人
郵送	人
F A X	人
Eメール	1人
合計	5人

3 意見等の概要及び町の考え方

No.	茨城町第5次総合計画後期基本計画(案)に対する意見の対象箇所	意見の概要	意見数	町の考え方(回答)
1	第1章第2節 子どもを安心して産み育てる環境づくり 1 少子化対策・子育て支援の充実	「キューピットプラン」に大いに期待している。出来れば2箇月に1回程度「集団お見合い」を計画し、実施してほしい。	1	ご意見をいただきました「キューピットプラン」事業は、現在も町社会福祉協議会において「いばらき出会いサポートセンター」と共催で行っておりますが、開催数や人数の制限もあることから、多くの方に参加していただくことができませんでした。 このことから、町では平成25年度から新たな婚活事業を計画しており、コミュニケーションの向上を図るセミナー等の開催や地域資源を活用したパーティーの開催など、参加しやすく継続できるような事業内容の検討を行っております。また、運営は、町内の事業所等へ積極的な働きかけを行い、実行委員会による企画・運営や町独自の未婚の男女の登録制度も検討しております。 今後、より多くの方が安心して参加できる婚活事業を関係機関と連携を図り、町ぐるみで推進してまいります。
2	第1章第4節 豊かな長寿社会の実現	「豊かな長寿社会の実現」については、ソフト的な施策だけでなく、主要医療機関を柱とし、介護・福祉、文化・教育施設を配置した道路づくりと高齢者の集まりやすい盛り場づくりなど、まちづくりを考慮した地域づくりを考えるべきと思う。 茨城町役場付近は、医療機関が限られ、何よりも公的交通機関が少ない。高齢化すると長距離の歩行や車	1	「豊かな長寿社会の実現」では、高齢者福祉の充実の観点から、介護予防の推進、生きがいづくりと社会参加の促進、介護保険サービスの充実を主な施策として掲げております。 ご意見いただきました高齢化社会に対応した道路整備や公共交通の問題につきましては、第3章第3節の「安全で快適に移動できるまちづく

2		<p>の運転も容易ではなく、行動範囲が狭くなるのに加え、医療への依存度は高くなる。このことから、水戸医療センターを主要な柱として、役場までを結ぶ道路の整備と沿線の商店街化、教育施設の集約化など、役場付近の活性化を考え、茨城町のまちづくりを進めるべきと思う。</p>	<p>り」に施策を掲げ、道路整備面では、広域幹線道路の整備促進、生活道路・都市計画道路の計画的な整備、拡幅整備や長寿命化を進める道路環境の向上に努め、安全で円滑な交通の確保を目標としております。公共交通につきましては、公共交通空白地域への対応及びバス運行の維持強化に係る事業者への働きかけに努めるとともに、高齢者等の移動手段を確保するため、ひとり暮らし高齢者福祉タクシー助成事業等を推進します。</p> <p>次に、高齢化社会への対応を考慮したまちづくりにつきましては、第3章第4節の「誰もが住みよい市街地整備の推進」に施策を掲げ、土地利用面では、地域特性を生かした土地利用に努めるとともに、町の活性化を図るための新たな土地利用の検討、都市計画の事業や制度等を活用した定住人口の確保に向けた取組を推進します。市街地整備につきましては、本町の歴史や文化、自然などの地域特性を生かした市街地整備を行い、人が行き交うまちづくりを推進することとしており、水戸医療センターの位置する桜の郷地区においては、本町に暮らす全ての人々が安心して楽しく暮らすことのできる福祉・医療拠点として都市施設などの整備を推進します。</p> <p>後期基本計画では、基本構想において土地利用構想を定めており、役場周辺及び桜の郷地区を都市住宅エリアに位置付け、住環境の充実や都市基盤施設の整備に努めることとしております。また、役場周辺は、同時に商業業務エリアにも位置付けられており、都市機能の充実を図り、生活密着型の機能を持つことにより新たな需要を生み出すことを目標としております。前述しました各種施策の展開により、高齢化社会に対応するとともに、定住人口の確保、広域的交流人口の増加を図り、魅力と活力あるまちづくりに努めてまいります。</p>
---	--	--	---

3	<p>第2章第1節 優良な企業の誘致活動の推進</p>	<p>工業団地への企業誘致の推進が施策として掲げられているが、既に10年以上も誘致に努力しても成果が出ていないので、住宅団地に用途を変更した方が良いのではないかと。</p>	<p>1 現在の工業団地への立地状況は、茨城中央工業団地では4社が立地操業し、他1社の建設工事が進められているところ。また、茨城工業団地では昨年2社が立地し、合わせて9社が操業しており、着実に誘致活動の推進が図られております。</p> <p>2つの工業団地は、それぞれ茨城県及びその関係機関が事業主体となり工業用地に指定していることから、今後も優良企業の誘致を推進することで、地元の雇用機会を創出し、若者が安心して定住できる生活環境の改善を図り、さらなる自主財源の確保に努めます。また、町内の既存企業との連携により産業全体の活性化が図られるよう、関係機関と一体となり誘致活動に取り組んでまいります。</p>
4	<p>第2章第1節 優良な企業の誘致活動の推進 第2章第3節 地域資源を活かした観光産業の振興</p>	<p>基本構想の土地利用構想における複合産業拠点（茨城工業団地）と文化・芸術拠点（文化的施設建設予定地）を一体化した複合地域を、多くの人を集客できる力のある企業を誘致することで賑わいと活力ある拠点とし、町の地域資源である小幡北山埴輪製作遺跡、小幡城跡、潤沼自然公園、名勝広浦、親沢公園、史跡などの観光産業振興に結び付けることが必要であると考えます。</p> <p>二つの拠点に、道の駅を誘致することにより、ポケットファームどきどき、専門店等との相乗効果で活気が高まり、多くの集客が可能になると思う。また、これにより計画中の文化・芸術拠点も新しい時代に合った魅力が広がると思う。</p>	<p>1 複合産業拠点に位置付けている茨城工業団地につきましては、立地環境の優位性や優遇制度を積極的にPRするなど、企業誘致活動を積極的に推進するとともに、周辺環境の整備促進を図り、産業機能の集積に努めます。</p> <p>また、文化・芸術拠点に位置付けている小幡地内の文化的施設建設予定地につきましては、多数の住民を収容できるホール機能等を有する文化的施設の整備を進めるとともに、周辺の歴史的資源の有効活用と住民が文化・芸術を気軽に楽しむことができる環境づくりに努め、文化・芸術、歴史を軸とした新たな交流の創出を目指すこととしております。</p> <p>これら2つの拠点における施策展開により、産業、文化・芸術、歴史分野における交流人口の増加などの相乗効果を生み出すとともに、本町のシンボルでもある潤沼を始めとする地域資源との連携を図ることにより観光産業の振興を図り、地域の活性化に努めてまいります。</p>

5	<p>第3章第5節 上下水道の整備推進 1 上水道の整備</p>	<p>東日本大震災を踏まえ求められるのはインフラの確保であるが、抜本的な計画、対応を望む。</p> <p>本町では、震災後10日間で30%の通水だったが、水戸市では3、4日間ではほぼ全域が通水しており、この違いは水道システム（ハード面）と組織の体質にあると考える。</p> <p>水道事業を水戸市と併合することにより、ライフラインが確保され、将来料金も半額近くになる。水道事業は特別会計、公営企業形態であるので、効率化を図り、水戸市と併合すれば良いと思う。</p> <p>制度上の問題や各事業体の事情もあると思うが、行政間の調整により、合理的な手法として事業統合をすべきと考える。</p>	<p>1</p> <p>東日本大震災時は、町内全域に給水が整うまでに多くの時間を要し、大変なご心配とご不便をおかけしました。今回の教訓を踏まえ、危機管理体制の強化を図るとともに、町民の皆様にご安全で安定した水の供給が行えるよう一層努力したいと考えております。</p> <p>ご意見をいただきました件につきましては、本町だけで決められるものでもなく、現段階では多くの課題があるため、明確に回答できる問題ではありません。しかし、水道施設の多くが更新時期を迎え、これまでの拡張や増量を目的とした事業展開から、限られた財源の中で管理・運営に重点を置いた効率的な経営が求められておりますので、長期的な視点に立った中では、ご意見にもありました事業の統合化・広域化などの検討の必要性も高まってくることを予想されます。</p> <p>今後は、県企業局や近隣市町村とも連携を図りながら、的確な水需要把握に努め、将来的に持続可能な水道事業運営に努めてまいります。</p>
6	<p>第4章第1節 明日を担う人づくり 2 学校教育の充実</p>	<p>平成26年に桜丘中学校と梅香中学校が統合する予定となっているが、統合中学校までの通学路整備が十分でない状況での自転車通学は安全面で心配なので、予算面で可能であるならばスクールバスによる対応をお願いしたい。</p>	<p>1</p> <p>平成26年4月開校予定の桜丘中学校と梅香中学校の統合中学校において、スクールバスを導入するか否かにつきましては、現在、議会代表、地域の代表及び学校並びにPTAの代表から組織されています「茨城町立中学校統合準備委員会」において、慎重に協議を重ねているところであります。今後は、関係保護者等のご意見を集約しながら、結論を出していきたいと考えております。</p> <p>また、生徒の通学時における安全確保という目的から、道路の拡幅や歩道の設置など年次的に整備していく計画であります。さらに、防犯灯や横断歩道、信号機の設置など通学路において危険な箇所を調査・把握し、道路整備と併せての整備と関係機関への要望を行ってまいります。</p>